

ことなく、いつ働となく取扱ふて手前をなすこそ本意なれ、古人の無言などいはれしことも有なん、只世間の雑談をいみ、今時の人、何の清談有べきとて、いましめられし言葉なり、切磋琢磨に於て無言といふもの有べき哉、勿論雑談は誰制せずとも、茶の本意を觀せんと思ふ者かほどのことは、もとより得心も有べし。

## 〔茶道早合點上〕茶室

水指を自身の横てに置、水指と爐との間にむかひ茶を立るを、四疊半だてと云、水指を爐の隣に置、爐に向ひて茶を立るを向立といふ、亭主の右の方に客居るを左勝手と云、又本勝手とも云、亭主の左の方に客居るを右勝手と云、又非勝手とも云、

〔茶道八爐圖式上〕初心薄茶點様の事四疊半點  
手前

## 〔和泉草二〕左勝手之徳

一長板ノ上ニ釜一ツ置時吉、但シ中ニハ置ベカラズ、水指ノ上ニ物置ニ見ヘテ吉、壺取テ茶調ニ吉、其外侘數寄ニよし、道具ヲ見下シテ吉、徳多シ。

## 〔茶道筌蹄一〕點茶前

四疊半點 水さしの向か、間中の真にかゝる、左右は、間中の真より少し客付へよる、併し大ぶりなる水指は心得有べし、いづれ爐縁の外づらより水指の前まで、八寸になるやうに置付る、茶器茶碗の間、疊の目四ツ、水さしとの間は、茶わんへ置たる茶杓の先、水さしより八分あく程に置付て、茶器茶筌を流すは、爐縁の角筋にして、爐縁の角と水さしとの真中を、茶器茶筌の間の真にとる、茶器茶筌の間の疊の目四ツなり、居前は爐縁の角を真にとる、蓋置と茶入とを兩膝の目どにすわり、釜の蓋を取るに、少し居敷の上る程にすわるべし、夫故人の長短によつて、前へ進むと後へよるとあるべし、建水、初めは爐のすじぎりに置き、點前にかゝるとき、爐縁のすじを建水の真